

たかみや湯の森今昔物語

江戸時代後期

昔、親子の旅人が歩いていた時、子どもが目が痛いと言いました。ふと見ると、道端に湧水があった。その水で目を洗うと痛みが治まった。水を持ち帰りその後も目を洗っていたら完治した。という言い伝え。



明治20年頃～

岩崎猛二氏が、山口石材店の横近くに四軒の借家を建てました。最初は、小さな風呂であったが次第に立派になって行きました。

『この湯は皮膚病に特効がある事が広く知られ薬が効かない人でもここ来ると不思議と治ったそうです。』
温泉宿も出来、郡北一帯の住民から親しまれ、土用の丑の日など多くの湯客で賑わったそうです。



昭和38年～

高宮町福祉センター高宮ホームが完成。
(現在の山口石材店の横にある古い建物)
湯治や宴会、結婚式など住民の福祉に10年間利用されました。



昭和50年～

高宮温泉福寿荘が完成。(現在の別館宿泊施設 福寿荘)
高宮町社協が20余年間運営。
高度ラジウム温泉として、高宮町の老人保養施設として、老人の憩いの場唯一の温泉として親しまれて今日まで利用されている。

現在は、“大仙の湯”として、たかみや湯の森が受け継いでいます

